



タムラ製作所

検索

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

製品情報 会社情報 投資家情報 リクルート情報 CSR活動

CSR 活動	
トップメッセージ	
経営理念	
タムラグループのCSR	
コーポレート・ガバナンス	
コンプライアンス・危機管理	
CSR取り組み分野別報告	
社会性報告	
環境報告	
第三者意見	
編集方針	
Corporation Report	
English	
Chinese	
調達ガイドライン	
グリーン調達基準	
ISO14001認証証明書	



新着情報

- 2014/07/15 CSR活動を更新しました
- 2014/06/12 グリーン調達基準及び付属書を改定しました
- 2014/06/11 調達ガイドラインを改定しました
- 2014/04/08 ISO14001認証証明書を更新しました

2013年度の活動

みんなでシェアして、  
低炭素社会へ

Fun to Share

タムラ製作所は、  
Fun to Shareに賛同します。

なでしこリーグ所属  
ASエルフェン埼玉  
へ協賛しています

▶ <a href="#">トップメッセージ</a>	▶ <a href="#">経営理念</a>
▶ <a href="#">タムラグループのCSR</a>	▶ <a href="#">コーポレート・ガバナンス</a>
▶ <a href="#">コンプライアンス・危機管理</a>	▶ <a href="#">CSR取り組み分野別報告</a>
▶ <a href="#">社会性報告</a> お客様との関わり 取引先の皆様との関わり 株主・投資家の皆様との関わり 従業員との関わり 社会貢献活動	▶ <a href="#">環境報告</a> 環境経営 環境目標および実績と評価 環境保全への取り組み
▶ <a href="#">第三者意見</a>	▶ <a href="#">編集方針</a>

報告対象期間：2013年4月1日～2014年3月31日(一部、2014年4月以降の活動も含みます)

CORPORATION REPORT



CORPORATION REPORTの最新版・バックナンバーのダウンロードができます。

ダウンロード資料

▶ <a href="#">調達ガイドライン</a>
▶ <a href="#">グリーン調達基準</a>
▶ <a href="#">ISO14001 認証証明書</a>



タムラ製作所

検索

Powered by Accela BizSearch

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

製品情報 会社情報 投資家情報 リクルート情報 CSR活動

CSR 活動	
トップメッセージ	
経営理念	
タムラグループのCSR	
コーポレート・ガバナンス	
コンプライアンス・危機管理	
CSR取り組み分野別報告	
社会性報告	
環境報告	
第三者意見	
編集方針	
Corporation Report	
English	
Chinese	

## トップメッセージ

新3か年中期経営計画“Bilrite Tamura”始動の年、利益重視の意識改革・構造改革の推進で業績を回復。～90年の思いを受け継ぎ、100年企業へ～



株式会社タムラ製作所  
代表取締役社長 田村直樹



### 国連グローバル・コンパクト支持表明メッセージ

タムラグループは、国連グローバル・コンパクトの人権、労働、環境および腐敗防止の4分野に関する10原則を引き続き支持し、推進してまいりますことを、ステークホルダー（利害関係者）の皆様方に宣言いたします。

### ■ 新3か年中期経営計画の初年度、利益重視の構造改革で業績を回復

2013年度は、新3か年中期経営計画“Bilrite Tamura”始動の年。計画では「健全な経営体質」「最適なグローバル体制」、そして「立派な製品」の3つを作り上げていくことを目標に掲げました。特に、「健全な経営体質」を作り上げるために売上重視から利益重視への意識改革を図り、適正な「つなぎ利益（製品別の積上げ原価に基づく利益）」を確保していくことで、営業利益率の改善を図りました。この利益重視を徹底した意識改革・構造改革の推進が大きな要因となり、業績を急回復させることができました。

事業別に見ると、海外生産を進めている電子部品関連事業では、円安が採算面でのマイナス要因となりましたが、グローバル生産体制の最適化による固定費低減とグループ全体にシステム導入したリアルタイムでの個別原価モニタリングが高い効果を発揮し、その影響を最小限に抑えることができました。また、ここ数年取り組んできた「民生用から産業用へ」の転換が実を結び、新エネルギーや鉄道、送配電といった分野の大型部品において実績を上げました。

電子化学実装関連事業は、車載市場やスマートフォン・タブレットPC市場の好況を受け、電子化学材料の販売を伸ばし、利益を拡大。積極的に開発・投入した高付加価値製品の多くが国内生産のため、円安効果も表れています。実装装置販売は、設備投資の回復の遅れから低水準で推移しましたが、引合い件数の増加傾向から底は脱したと見えています。

情報機器関連事業も、当期前半までは苦戦が続きましたが、性能・機能を高めた新製品が好評を得ており、後半は受注が回復に向かいました。

### ■ 予算配分の適正化と人材育成で、強固なグローバルサプライチェーンを構築

「最適なグローバル体制」の構築についても、日系企業への依存度が高かった営業体制から転換し、海外企業へのアプローチを強化。ナショナルスタッフの積極登用による現地完結型への移行。また、中国・韓国へのR&D拠点設置による「開発の現地化」や、電子部品・LEDの生産拠点を中国からバングラデシュに移す「生産地シフト」など、海外拠点間の最適化を推進し、グローバルな予算配分の適正化を図り、地域別売上構成に占める海外（アジア・ヨーロッパ・南北アメリカ）の割合が50%を超えました。

このようにタムラグループにとって、海外を含めたサプライチェーンマネジメントの重要性が一層増しております。13年度はグローバル人材育成の一環として、若手従業員向け海外研修（於中国）やグローバルマインドセット研修を実施。さらに、グループ共通階層別研修のグローバル展開の一環として、海外現地採用従業員全員を対象とした経営理念教育、並びに管理監督者を対象としたマネジメント研修を中国にて実施するなど、人材面からも強固なグローバルサプライチェーンの構築を進めております。

### ■ 今後の成長が期待できる、先駆的な開発テーマへの挑戦

以前の中期経営計画から推進してきた「ナンバーワン戦略」「オンリーワン戦略」を引き継いだ「立派な製品」作りの取り組みについても、今後の成長が期待できる開発案件の成果が現れてきています。

電子部品では、酸化ガリウム基板を使用した先駆的な開発を進めており、高輝度LED製品の実用化を目指しています。また、太陽光関連や鉄道、ハイブリッドカーなど、大電流・大出力を必要とする分野でのニーズが見込まれる次世代パワーデバイスであるMOSトランジスタの開発に世界に先駆けて成功しています。内部に絶縁性ウレタンを充填した「高効率電源モジュール」は、欧米で導入予定の待機電力関連規制を背景に売上を伸ばしていくと思われます。電子化学材料では、スマートフォン関連部品等の薄型化・高密度化に対応した開発を推進。13年度は、従来に比べ低温で電子部品を接着させる接合材料や、基板同士を低温・低圧で接着し、コネクタ接続代替となる接合材料などを新たに開発、発売しました。また、チップ部品の超小型化に対応すべく、従来のはんだペーストについても、さらなる微細化技術を開発しています。

#### ■ 100年企業として、社会から信頼される企業グループを目指します

タムラ製作所は2014年5月11日、おかげさまで90周年を迎えることができましたが、今も、その創業の精神である「お客様に世界の一流品を提供する」を経営の根幹に受け継ぎつつ、事業を推進しております。タムラグループは、これからも変わらずにこの創業の精神を実践していくことで、100年企業として、社会から信頼される企業グループを目指してまいります。

2014年7月 代表取締役社長

田村 直樹

[ページトップへ戻る▲](#)

[このサイトについて プライバシーポリシー](#)

(C) TAMURA Corporation, All rights reserved.



タムラ製作所

検索

Powered by Accella BizSearch

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

製品情報 会社情報 投資家情報 リクルート情報 CSR活動

<b>CSR 活動</b>
トップメッセージ
経営理念
タムラグループの CSR
コーポレート・ガバナンス
コンプライアンス・危機管理
CSR取り組み 分野別報告
社会性報告
環境報告
第三者意見
編集方針
Corporation Report
English
Chinese

## 経営理念

人々の幸せを育むため、タムラにしかできないこと、タムラだからできることを極め、お客様や社会に喜んでいただける製品・サービスを提供し続ける「オンリーワン」カンパニーを目指します。

### ■ 経営理念

創業の精神である「お客様に世界の一流品を提供する」意志・姿勢を「オンリーワン」と表現し、経営理念を象徴するスローガンとして掲げています。2000年4月、ミッションを頂点とし、ビジョン、ガイドラインと並ぶ三層構造の「タムラグループミッション」を制定しました。「タムラグループミッション」には、「オンリーワン」カンパニーであるとともに「国際社会から認められるグローバル企業を目指したい」「従業員が誇りと夢を持ち続けられる企業でありたい」という思いが込められています。2007年1月には、「タムラグループミッション」のガイドラインを具体的な行動に落とし込んだ「タムラグループ行動規範」を制定しました。2014年3月には「タムラグループ行動規範」を改定、ISO26000の「社会的責任に関する手引き」が示す7つの原則を尊重し、7つの中核主題に取り組むことを基本方針として明記しました。

### コーポレートスローガン

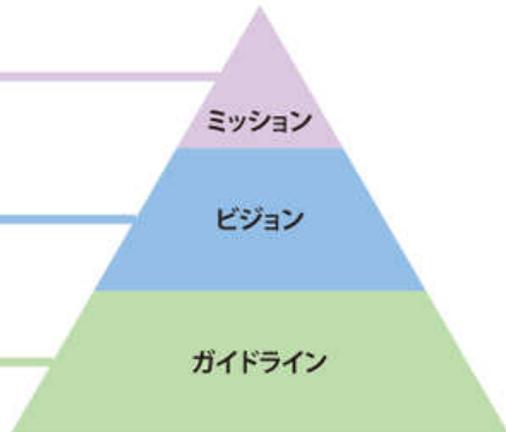
## オンリーワン・カンパニーの実現を目指します

### タムラグループミッション

タムラグループの存立理由で最上位の概念

経営の基本方針、および社会に表明する到達目標

行動基準。役員および従業員が日々、どのように思考し、行動するか的心構え



#### Mission (ミッション)

私たちは タムラグループの成長を支える全ての人々の幸せを育むため、世界のエレクトロニクス市場に高く評価される独自の製品・サービスをスピーディに提供していきます。

#### Vision (ビジョン)

1. タムラグループは、世界的視野にたち、エレクトロニクス産業が求める事業を経営基盤とします。
2. タムラグループは、市場本意をつらぬき、世界のお客様が求める技術を事業基盤とします。
3. タムラグループは、公正な視点で社員を評価し、努力によって成果をもたらす人を最も賞賛します。
4. タムラグループは、国際社会の一員として行動し、各国の法規制を順守し文化・慣習を尊重します。
5. タムラグループは、地球環境の保全に努め、資源の有効化と再資源化を推進します。

#### Guideline (ガイドライン)

1. 私たちは、パートナーシップを大切にします。

私たちは、地位や専門性そして国や組織の違いをこえて、お互いを信頼できるパートナーとして、個人およびチームの目標を達成します。また、市場のニーズを的確にとらえ各自の専門性を研ぎ、お客様からの期待をさらに高めます。

2. 私たちは、革新する勇気を大切にします。

私たちは、技術革新の著しい世界のエレクトロニクス業界で生き残っていくため、過去の常識や 成功体験をこえた、革新的な発想や行動を称賛します。

3. 私たちは、多彩な個性を大切にします。

私たちは、基本的人権を尊重し、さまざまな文化や生活習慣の違いをこえて、グループの英知を 結集し、世界のお客様から高く評価される独自の価値を創造します。

4. 私たちは、社会的な責任を大切にします。

私たちは、自分の仕事や行動に責任をもち、信頼をいただいている株主やお客様・協力会社、そして事業を営む国および地域社会に対し、正直かつ公正に対処します。また、環境問題への 取り組みはグループ存続の条件と認識し、積極的に行います。

#### ◆タムラグループ行動規範

「タムラグループ行動規範」は、以下の17項目について、項目毎に基本方針および代表的な行動規範を示したものです。

「タムラグループ行動規範」構成内容：

総則

1. お客様の信頼と満足の獲得
2. 株主等経営を支援していただく皆様からの信頼の獲得
3. 基本的人権の尊重
4. 安全で健康的な職場環境
5. 自由な競争及び公正な取引
6. インサイダー取引の禁止
7. 不適切な接待及び贈答の禁止
8. 公的機関との不適切な取引及び不適切な政治献金の禁止
9. 安全保障輸出入管理関連法令の遵守
10. 知的財産権及びノウハウの創出、保護と活用
11. 反社会的行為への関与の禁止
12. 競業及び利益相反行為の禁止
13. 適切でタイムリーな情報開示
14. 情報(企業情報・個人情報等)の適切な保護及び管理
15. 会社資産の保護
16. 地球環境の尊重
17. 国際社会との協調及び地域との共生

[ページトップへ戻る▲](#)

[このサイトについて プライバシーポリシー](#)

(C) TAMURA Corporation, All rights reserved.



タムラ製作所

検索

Powered by Accela BizSearch

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

- ◆製品情報
- ◆会社情報
- ◆投資家情報
- ◆リクルート情報
- ◆CSR活動

CSR 活動	
◆	トップメッセージ
◆	経営理念
◆	タムラグループのCSR
◆	コーポレート・ガバナンス
◆	コンプライアンス・危機管理
◆	CSR取り組み分野別報告
◆	社会性報告
◆	環境報告
◆	第三者意見
◆	編集方針
◆	Corporation Report
◆	English
◆	Chinese

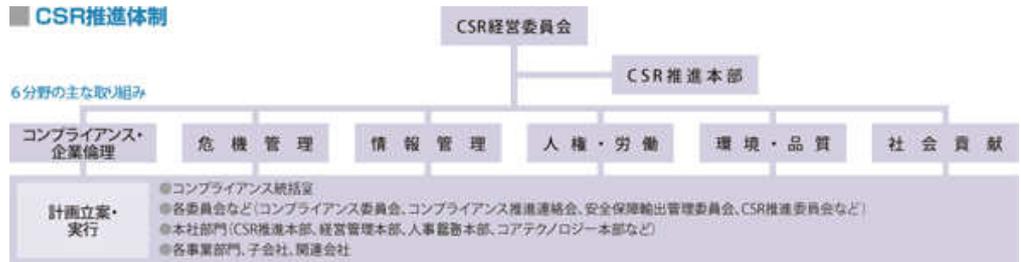
## タムラグループのCSR

私たちは、タムラグループミッションを事業活動の中で実現することが、タムラグループのCSR(企業の社会的責任)だと考えます。そのためには、私たち一人ひとりがCSRを理解し行動していくことが大切と考え、推進活動を積極的に行っています。

### ■ CSR推進体制

2007年5月にCSR経営委員会をトップとしたCSR推進体制を構築し、主にコンプライアンス・企業倫理、危機管理、情報管理、人権・労働、環境・品質、社会貢献の6つの分野に取り組んでいます。CSR経営委員会は、社長、事業部門の常務執行役員、社外取締役、監査役の他に社外有識者にも加わっていただいた委員で構成され、年2回(春・秋)開催し、グループのCSR活動について定期的なレビューや取り組み方針についての意見交換を行っています。

### ■ CSR推進体制



### ■ タムラグループの主要なステークホルダー



### ■ 国連グローバル・コンパクトへの参加



タムラグループは、国連グローバル・コンパクトの10原則を支持することを表明し、2008年9月に参加を果たしました。人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、腐敗の防止の4分野10原則に関するコミットメントをタムラグループ行動規範に反映し、活動を継続しています。

### ■ ISO26000対応

ISO26000の定める「関連する行動及び期待」を基に「タムラグループ行動規範」との整合を実施、2014年3月に「タムラグループ行動規範」を改定し、ISO26000の「社会的責任に関する手引き」が示す7つの原則を尊重し、7つの中核主題に取り組むことを基本方針として明記しました。

■ 社外からの評価

◆ 企業の環境経営度調査 日本経済新聞社

「環境経営度調査」は、環境対策への取り組みと経営効率の向上を企業がいかに両立しているか、社内の環境経営推進体制や温暖化対策、資源循環などの項目について評価し、ランキングにまとめたものです。

2013年度のランキングは、製造業429社中212位(2010年度は349位、2011年度は229位、2012年度は209位)でした。

◆ CSR企業ランキング 東洋経済新報社

「CSR企業ランキング」は、人材活用、環境、企業統治と社会性のCSRの取り組み内容と財務データから「信頼される会社」を見つけるランキングです。

1000社以上を対象に調査を実施しており、2013年度のランキングは総合297位(2009年度は296位、2010年度は265位、2011年度は231位、2012年度は220位)でした。

■ 紛争鉱物問題への取り組み

[紛争鉱物問題への取り組みはこちらをご覧ください。](#)

[ページトップへ戻る▲](#)

[このサイトについて](#) [プライバシーポリシー](#)

(C) TAMURA Corporation, All rights reserved.



タムラ製作所

検索

Powered by Accela BizSearch

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

- ◆ 製品情報
- ◆ 会社情報
- ◆ 投資家情報
- ◆ リクルート情報
- ◆ CSR活動

CSR 活動
◆ トップメッセージ
◆ 経営理念
◆ タムラグループのCSR
◆ コーポレート・ガバナンス
◆ コンプライアンス・危機管理
◆ CSR取り組み分野別報告
◆ 社会性報告
◆ 環境報告
◆ 第三者意見
◆ 編集方針
◆ Corporation Report
◆ English
◆ Chinese

## コーポレート・ガバナンス

企業価値を最大化する企業経営に取り組むため、コーポレート・ガバナンス体制の充実を図っています。

### ■ コーポレート・ガバナンスの考え方

タムラグループは、経営の透明性・効率性の向上をコーポレート・ガバナンスの基本方針とし、経営陣の強い使命感と高い企業倫理観に基づき、コンプライアンス経営と企業価値の最大化に努め、株主をはじめとするすべてのステークホルダーが求める経営を目指します。  
[詳細およびコーポレート・ガバナンス報告書はこちらをご覧ください。](#)

### ■ コーポレート・ガバナンス体制

#### ◆ 取締役会と執行役員機構

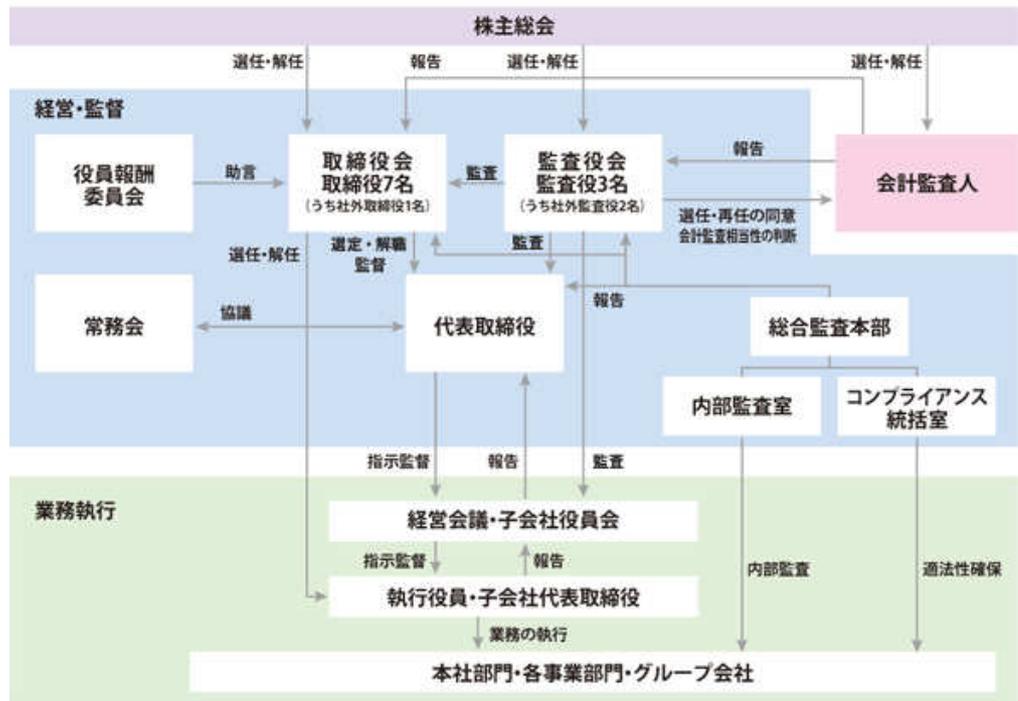
経営の意思決定と業務執行の乖離を防ぐため、各事業部門を統括する執行役員を取締役が兼務する「執行役員制度」を採用しています。取締役会を原則毎月1回、取締役と各部門責任者による業務執行・経営監視に関する経営会議を年に8回程度開催し、取締役の効率的な業務執行を確保しています。

#### ◆ 監査役制度と内部監査

監査役3名(うち社外監査役2名)からなる監査役会を置き、取締役会・経営会議への出席、取締役などからの営業報告の聴取、決裁書類の閲覧、主要事業所での業務及び財務調査等により取締役の職務の執行を監査しています。

また、内部監査室は年度監査計画書に基づき、監査役と連携して本社およびグループ各社の国内・海外の拠点について内部監査を行っています。

### ■ コーポレート・ガバナンス体制図



### ■ 内部統制システムに関する基本的な考え方

タムラグループは、経営コントロールの強化を実現するための内部統制システムの目的を「経営の安定化および効率化」「適正な説明責任の実行」「法規制と内部規程の遵守」とし、「リスクマネジメント」「コンプライアンス」「内部監査」をその実現手段として捉え、その実現のための体制を構築しています。

[ページトップへ戻る▲](#)



タムラ製作所

検索

Powered by Accela BizSearch

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

◆製品情報 ◆会社情報 ◆投資家情報 ◆リクルート情報 ◆CSR活動

<b>CSR 活動</b>
◆ トップメッセージ
◆ 経営理念
◆ タムラグループのCSR
◆ コーポレート・ガバナンス
◆ <b>コンプライアンス・危機管理</b>
◆ CSR取り組み 分野別報告
◆ 社会性報告
◆ 環境報告
◆ 第三者意見
◆ 編集方針
◆ Corporation Report
◆ English
◆ Chinese

## コンプライアンス・危機管理

倫理・法令の遵守を徹底するとともに、想定されるさまざまな経営危機に適切に対応するため、コンプライアンス推進、危機管理体制の維持・強化にグループ全体で取り組んでいます。

### ■ コンプライアンス体制

組織として業務執行部門とは独立した機関である「コンプライアンス統括室」を設け、かつ「コンプライアンス委員会」および「コンプライアンス推進連絡会」を設置して、コンプライアンス遵守及び適法性確保のために適時に対応できる体制の維持・強化に取り組んでいます。

#### ◆ コンプライアンス委員会

2006年度に代表取締役社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、年2回開催。委員には社外取締役のほか外部有識者も含まれ、コンプライアンス体制、コンプライアンス推進活動計画・実施状況のチェックおよびコンプライアンスに関する付議事項の審議・決議を行い、是正・予防のための措置や関係部署への必要な提言を行っています。

#### ◆ コンプライアンス推進連絡会

2006年度にコンプライアンス統括室の執行補助機関として、コンプライアンス統括室長を議長とする「コンプライアンス推進連絡会」を設置し、年2回開催。グループを海外拠点を含む9つのコンプライアンスユニットに分けた各ユニットの推進責任者で構成され、コンプライアンス体制の確立・浸透の強化に必要な活動計画の策定ならびに協議を行っています。

#### ◆ 社内通報窓口

社内通報窓口は、タムラグループ内部において組織的・個人的に行われる違法行為等もしくはそれらに該当する恐れのある行為について、内部から相談・通報を受け、問題行為の早期発見と是正並びに防止を図り、コンプライアンス遵守の体制を確立・強化することを目的として設置されました。グループの役員・従業員等は、上記の通報対象行為を認知した場合は、イントラネットもしくは専用電話により、速やかに社内通報窓口へ通報等(匿名通報可)を行わなければなりません。受付窓口は、コンプライアンス統括室長と法務部門長の2名が担当し、厳格な守秘義務を負うと共に、通報したことが通報者にとっていかなる不利益も生じないよう、細心の注意を払って対応しています。また、「社内通報規程」において通報者の保護を規定しています。

#### ◆ タムラグループ・ヘルプライン

社内通報における更なる通報者の保護と利便性向上のため、2010年4月より、外部のWebサーバーを使用する社内通報の受付システム「タムラグループ・ヘルプライン」を導入しました。このシステムはインターネット環境があれば、パソコンや携帯電話から365日24時間どこからでも通報することが可能です。また、通報者が匿名を望む場合、一切名前を明かすことなく会社側受付窓口からの質問やフィードバックを受け続けることができ、従来からのイントラネットを利用した社内通報システムの欠点を全て解消しています。

### ■ リスク管理

#### ◆ リスク管理規程

経営に重要な影響を与えるリスクへの対応を定めた「リスク管理規程」を制定し、グループ全体での危機管理体制の強化を図っています。この規程では、経営危機に対して役員および従業員が一丸となり、迅速かつ冷静に対応すること、そして人命に関わる場合には、人命の保護・救助を最優先させて対応することを原則としています。また、リスクの度合いと影響の大きさに応じてレベルAとレベルBに分類した「アラームエスカレーション項目」を定義しています。

#### ◆ アラームエスカレーションWeb報告システム

アラームエスカレーションWeb報告システムは、「リスク管理規程」に定義されたリスク事象が発生したときに、イントラネットを利用して速やかに経営層まで報告を上げ情報共有を図ると共に、必要に応じ関係者が一丸となって対応するための報告システムです。タムラグループの役員・従業員等は、経営上の危機につながると思われる事象を発見した場合、速やかに報告を行うことが義務付けられています。

### ■ 情報管理

#### ◆ 情報セキュリティ

企業・個人情報などの適切な保護および管理のために、2008年度に「情報セキュリティ基本方針」および「情報セキュリティ管理規程」を制定し、情報に関するリスクマネジメントに取り組んでいます。ネットワークへのセキュリティ

対策、データへのアクセス制御、外部記憶装置の使用制限などの技術的安全管理措置をはじめ、物理的安全管理措置として、IDカード認証システムを導入しています。

#### ◆ 適時・適正な情報開示

適時に適正な情報を公開するため、ホームページ上に投資家情報サイトを開設し、コミュニケーション促進に取り組んでいます。有価証券報告書、決算説明会の資料などは発表後遅滞なくホームページに掲載しています。そのほかにも、株主・投資家の皆様向けの各種情報媒体として、決算短信(四半期ごと)や株主通信などを発行しています。IR情報は、[こちら](#)をご覧ください。

#### ■ 安全保障輸出管理への対応

日本をはじめとする主要国では、武器や軍事転用可能な貨物・技術が、国際社会の安全性を脅かす国家やテロリスト等、懸念活動を行うおそれのある者に渡ることを防ぐため、国際的な枠組みを作り、輸出入の管理を行っています。

日本においては、この安全保障の観点に立った貿易管理の取組を、外国為替及び外国貿易法に基づき実施しております。タムラグループでは、旧ココム規制以来、これに対応した取り組みを実施しており、2005年7月には、新たな安全保障輸出管理規程を制定し、これを経済産業省に届け出ました。以来、社内に安全保障輸出管理体制を組織し、継続して厳格な対応をしております。

#### ■ 事業継続計画(BCP)

タムラグループでは、東日本大震災を契機に事業継続計画の重要性を認識し、2011年度に国内外の全事業所を対象とした「タムラグループ大規模地震対策マニュアル」を発行しました。大規模地震発生直後の初動対応から復旧、事業再開に至る対応内容を取りまとめたものです。2012年度には大規模地震以外の災害として、風水害、火災、大規模停電、集団感染、放射性物質による汚染、戦争/革命/内乱/暴動をリスクに加え、「タムラグループ緊急事態対策マニュアル」として拡張しました。

事業所毎の事業継続計画策定はほぼ終わり、2013年度には電子化学事業セグメントにおいてグローバルでのBCP策定を行いました。いずれかの事業所が被災し操業できなくなったときに、一刻も早く他の工場で生産体制が整えられるよう手順や必要な文書を整備すると共に、代替不可能な材料については在庫を確保する等の対応を進めました。今後他の事業セグメントにおいても同様の取り組みを進め、当社グループを取りまく状況の変化に対応し、事業継続計画を継続的に改善していきます。

#### ◆ 防災用品の整備および備蓄

事業拠点毎に防災用品の整備および備蓄を計画的に進めております。2012年度は、国内における徒歩帰宅困難者の3日分の飲料水と食料品の備蓄、従業員および常駐している協力会社社員などの全員を対象に避難用ヘルメットの配布、及び東日本大震災発生直後に通信手段が絶たれたことを教訓とした衛星電話の導入を行いました。2013年度は、停電時に備えた発電機、及び救助用具、簡易トイレ、毛布等の備蓄整備をいたしました。今後も優先順位を考慮しつつ、災害への備えを進めてまいります。

[ページトップへ戻る▲](#)



タムラ製作所

検索

Powered by Accela BizSearch

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

- 製品情報
- 会社情報
- 投資家情報
- リクルート情報
- CSR活動

- CSR活動
- トップメッセージ
- 経営理念
- タムラグループのCSR
- コーポレート・ガバナンス
- コンプライアンス・危機管理
- CSR取り組み分野別報告
- 社会性報告
- 環境報告
- 第三者意見
- 編集方針
- Corporation Report
- English
- Chinese

## CSR取り組み分野別報告

タムラグループでは、以下のようなCSR活動を推進しています。

※クリックすると拡大画像が表示されます。

タムラグループでは、以下のようなCSR活動を推進しています。

自己評価の判断基準 ●達成率100%以上 ●達成率80%以上100%未満 ●達成率80%未満

取り組み分野	取り組み目標	2013年度の主要取り組み内容	2014年度の主要取り組み内容	自己評価	報告ページ	達成率	2014年度の主要取り組み内容
（経 営）	●このほかの継続 ●このほかの推進	●このほかの推進 ●このほかの推進	●このほかの推進 ●このほかの推進	●	経営方針	100%	●このほかの推進 ●このほかの推進
コンプライアンス・ 法 規 制	●このほかの推進 ●このほかの推進	●このほかの推進 ●このほかの推進	●このほかの推進 ●このほかの推進	●	経営方針	100%	●このほかの推進 ●このほかの推進
倫 理 規 則	●このほかの推進 ●このほかの推進	●このほかの推進 ●このほかの推進	●このほかの推進 ●このほかの推進	●	経営方針	100%	●このほかの推進 ●このほかの推進
人 権 ・ 労 務	●このほかの推進 ●このほかの推進	●このほかの推進 ●このほかの推進	●このほかの推進 ●このほかの推進	●	経営方針	100%	●このほかの推進 ●このほかの推進
環 境 ・ 品 質	●このほかの推進 ●このほかの推進	●このほかの推進 ●このほかの推進	●このほかの推進 ●このほかの推進	●	経営方針	100%	●このほかの推進 ●このほかの推進
社 会 貢 献	●このほかの推進 ●このほかの推進	●このほかの推進 ●このほかの推進	●このほかの推進 ●このほかの推進	●	経営方針	100%	●このほかの推進 ●このほかの推進
上 位 以 外	●このほかの推進 ●このほかの推進	●このほかの推進 ●このほかの推進	●このほかの推進 ●このほかの推進	●	経営方針	100%	●このほかの推進 ●このほかの推進

ページトップへ戻る▲

このサイトについて プライバシーポリシー

(C) TAMURA Corporation, All rights reserved.



タムラ製作所

検索

Powered by Accela BizSearch

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

◆製品情報

◆会社情報

◆投資家情報

◆リクルート情報

◆CSR活動

CSR 活動	
◆	トップメッセージ
◆	経営理念
◆	タムラグループのCSR
◆	コーポレート・ガバナンス
◆	コンプライアンス・危機管理
◆	CSR取り組み分野別報告
◆	社会性報告
◆	お客様との関わり
◆	取引先の皆様との関わり
◆	株主・投資家の皆様との関わり
◆	従業員との関わり
◆	社会貢献活動
◆	環境報告
◆	第三者意見
◆	編集方針
◆	Corporation Report
◆	English
◆	Chinese

## お客様との関わり

独自の技術による高品質な製品の供給を通じて、お客様の満足度向上に取り組んでいます。

### ■ お客様満足度向上

#### ◆ SCM※<sup>1</sup>の展開(MAPS※<sup>2</sup>システム拡充)

お客様からの「必要な時に、必要な物を、必要なだけ」という納品のご要望にお応えするために、国内外の営業・生産拠点に基幹業務を一括管理するMAPSシステムを導入しています。また、評価指標管理を継続実施し、活動安定化を図っています。あわせて海外主要拠点へのMAPS導入拡大を図り、業務の平準化とSCMの強化に努めています。

※1 SCM: Supply Chain Management

※2 MAPS: Management Accounting Production Salesの頭文字からなるタムラグループのERPシステムの名称。

#### ◆ プライベートセミナーの実施

電子化学材料の開発・生産・販売を行うタムラ化学韓国は、2013年7月、韓国国内のお客様を対象としたプライベートセミナーを実施しました。自動車関連のソルダリング技術をテーマに外部講師を招いての講演、及び関連する当社グループの技術力をアピールし、通常の営業活動では得られないお客様との情報交換を通しての関係強化につながり、これまでに取引のないお客様からも高い関心をもっていただくきっかけとなりました。今後も継続して開催し、お客様満足度の向上に努めます。



#### ◆ 酸化ガリウム基板技術の研究開発成果に対する表彰

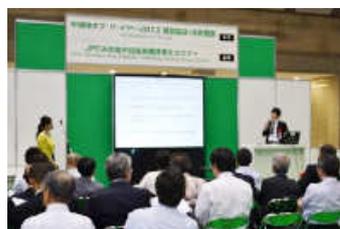
■ フジサンケイビジネスアイ主催「第27回独創性を拓く先端技術大賞」にて、企業・産学部門「特別賞」受賞

独立行政法人情報通信研究機構、タムラ製作所、及び光波は、2013年7月、優れた研究成果をあげた理工系学生や企業・研究機関などの研究者、技術者を表彰する「第27回独創性を拓く先端技術大賞」(フジサンケイビジネスアイ主催)において、企業・産学部門の「特別賞」を受賞しました。三者の共同研究「酸化ガリウムパワーデバイスの研究開発」において、日本独自の新しい材料技術が評価されました。



■ 半導体産業新聞主催「第19回半導体・オブ・ザ・イヤー2013」にて、半導体用電子材料部門「優秀賞」受賞

タムラ製作所は、2013年6月、最新のエレクトロニクス製品の開発においてもっとも貢献した製品を称えるための「第19回半導体・オブ・ザ・イヤー2013」(半導体産業新聞主催)において、半導体用電子材料部門の「優秀賞」を受賞しました。「酸化ガリウム単結晶ウエハー」の製作技術が、次世代情報社会に貢献する技術として評価されました。



■ 品質

◆ タムラグループ品質方針

タムラグループでは、「タムラグループ品質方針」を制定して、グループ全体の品質の基本方針としています。

タムラグループ品質方針

基本理念	顧客が満足する「価値」の提供 「顧客の視点」での活動の展開
品質方針	品質マネジメントシステムを構築し、継続的なマネジメントレビューをもってその有効性を維持向上させ、世の中に評価される高い品質の製品およびサービスを提供することにより、顧客の信頼と満足の向上に努め、社会に貢献します。

◆ 各サイトのISO9001:2008取得状況(2014年3月現在)

タムラグループでは、製造を行っている次の事業所でISO9001を取得しています。各事業所の品質マネジメントシステムを日々の品質管理、品質改善、品質問題の予防等に活用して、安定した品質の製品を納期厳守で納入するように努めています。

ISO9001:2008取得状況(2014年3月現在)

セグメント名	認証取得登録事業者名
電子部品関連事業セグメント	(株)タムラ製作所 電子部品事業本部 【坂戸事業所】
	(株)若柳タムラ製作所
	(株)会津タムラ製作所
	(株)タムラサーマルデバイス
	(株)光波【本社】
	(株)光波【浜松工場】
	田村電子(深セン)(有)
	田村電子(惠州)(有)
	タムラ電子(マレーシア)(株)
	タムラ・ヨーロッパ・リミテッド
	タムラ・コーポレーション・オブ・アメリカ / タムラ電子(メキシコ)(株)
	安全電具(惠州)(有)
	Op-Seed Co.(BD)Ltd.
田村精工電子(常熟)(有)	
合肥博微田村電気(有)	
電子化学実装関連事業セグメント	(株)タムラ製作所 電子化学事業本部 【入間事業所 / 児玉工場 / 名古屋営業所 / 大阪営業所】
	(株)タムラ製作所 FAシステム事業部 【狭山事業所 / 大阪営業所 / 名古屋営業所】
	タムラ化学韓国(株)
	上海祥楽田村電化工業(有)
	田村化研(东莞)(有)
田村自動化系統(蘇州)(有)	
情報機器関連事業セグメント	(株)タムラ製作所 ブロードコム事業部 【東京事業所】

◆ 品質推進大会

タムラグループでは、品質向上に取り組む意識を持ち続けるために、10月4日を「タムラグループ品質Day」と定め、毎年その時期に「タムラグループ品質推進大会」を開催しています。

第7回となった2013年度は、グループ内3部門から不良低減活動事例や品質改善事例の発表があり、グループ内への水平展開の場となりました。



第7回タムラグループ品質推進大会

#### ◆ 品質研修

タムラグループでは、海外拠点における生産も進めていることから、海外拠点の品質レベル向上への取り組みが重要であると考えております。そこで、海外関係会社への出向者や今後出向が予定されている人、また、技術系の業務で海外拠点に出張する機会が多い人々を主な対象者とした品質研修を開催しました。対象者は海外生産拠点において、幅広い業務に係わることから、業務全般に関してタムラグループ内で過去に発生した不具合事例や、公表されている社外の不具合事例などを盛り込んだ研修を行いました。タムラ製品の顧客満足度向上に向け、今後も適宜開催してまいります。



品質研修

[ページトップへ戻る▲](#)

[このサイトについて プライバシーポリシー](#)

(C) TAMURA Corporation, All rights reserved.



タムラ製作所

検索

Powered by Accela BizSearch

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

[製品情報](#)
[会社情報](#)
[投資家情報](#)
[リクルート情報](#)
[CSR活動](#)

<b>CSR 活動</b>
トップメッセージ
経営理念
タムラグループのCSR
コーポレート・ガバナンス
コンプライアンス・危機管理
CSR取り組み 分野別報告
社会性報告
<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様との関わり</li> <li>取引先の皆様との関わり</li> <li>株主・投資家の皆様との関わり</li> <li>従業員との関わり</li> <li>社会貢献活動</li> </ul>
環境報告
第三者意見
編集方針
Corporation Report
English
Chinese

## 取引先の皆様との関わり

お客様に満足していただける製品をお届けするために、取引先の皆様と協力して、品質・環境・社会的責任への配慮に取り組んでいます。

### ■ 購買方針(購買基本方針)

2007年3月に制定した「タムラグループ調達ガイドライン」の中で、「グローバルカンパニーとして世界的な視野で資材調達を推進し、タムラグループビジョンに理解を示し、継続的なパートナーシップを構築できる会社と共に利益創出を追求します」と掲げ、品質、環境、独自性など7つのポイントを「タムラグループ購買基本方針」としています。

#### タムラグループ購買基本方針

- (1) 品質について、「品質第一」の認識を強く持ち、タムラグループの品質管理方針を理解して、安定した品質管理が実行される会社と取引します。
- (2) 環境について、環境保護の世界的潮流を充分認識し、タムラグループグリーン調達基準を順守し、率先して環境に配慮した取組みができる会社と取引します。
- (3) 市場の要求に対して、常に積極的な改善・改革が実施できる自主性のある会社と取引します。
- (4) 専門メーカーとして他社には無い独自性を持った会社と取引します。
- (5) 取引ルートの簡素化を推進します。
- (6) 意見・提案・情報を積極的に提供し、熱意を持って活動する会社と取引します。
- (7) 人材を会社の財産と考え、社員教育を熱心に行い、会社全体のレベルアップに努める会社と取引します。

### ■ CSR 調達の推進

タムラグループは、製品の製造から販売までの事業プロセス全体に対するステークホルダーの関心の高まりに対応するため、サプライチェーン全体でのCSRの取り組みを推進すべく、「タムラグループ調達ガイドライン」で上述の「タムラグループ購買基本方針」を示し、さらに以下の具体的推進事項に関し、取引先の皆様へご理解とご協力をお願いしております。「タムラグループ調達ガイドライン」はこちらをご覧ください。

なお、近年の社会的な要請を反映するために、具体的推進事項No.11に「CSR調達の推進」「グリーン調達の推進」「紛争鉱物不使用の推進」「事業継続計画の策定」を明記し、また、新たに「反社会的行為への関与の禁止」を項目として追加しました。取引先の皆様のご理解を賜りながら、サプライチェーンを通してCSR推進を展開してまいります。

#### 具体的推進事項

- (1) お客様の信頼と満足の獲得
- (2) 基本的人権の尊重
- (3) 安全で健康的な職場環境
- (4) 自由な競争及び公正な取引
- (5) インサイダー取引の禁止
- (6) 不適切な接待及び贈答の禁止
- (7) 公的機関との不適切な取引及び不適切な政治献金の禁止
- (8) 安全保障輸出入管理関連法令の遵守
- (9) 知的財産権及びノウハウの創出、保護と活用
- (10) 反社会的行為への関与の禁止
- (11) 適切でタイムリーな情報開示
- (12) 情報(企業情報・個人情報等)の適切な保護及び管理
- (13) 貸与資産の管理
- (14) 地球環境の尊重
- (15) 国際社会との協調及び地域との共生

### ■ グリーン調達の推進

お客様に、環境に配慮した安全な製品をお届けするため、2002年に「タムラグループグリーン調達基準」を制定。環境保全活動に取り組む取引先の皆様からの、環境負荷が少ない部品の調達をさらに積極的に進めています。また、環境マネジメントシステムの構築や「JIS Z 7201」等による化学物質管理システムの構築と含有化学物質の保証体制の構築、タムラグループが指定する環境管理物質の調査をお願いしています。「タムラグループグリーン調達基準」はこちらをご覧ください。

### ■ 紛争鉱物問題への取り組み

米国ドット・フランク法(金融規制改革法)第1502条の紛争鉱物(コンフリクトミネラルズ)開示条項の最終規則が2012年8月22日に発効され、2013年1月より施行されました。紛争鉱物と定義されたスズ、金、タンタル、タングステンの4種類の原料となる鉱物が対象となり、紛争地域とされるコンゴ民主共和国(DRC)と周辺9ヶ国において、武装

勢力の人権侵害により採掘された鉱物が製品に使用されているかどうかの実態把握が義務付けられました。それらの購入を中止することで武装勢力の資金源となることを断ち、紛争に加担することを避けることが重要です。それに該当しないものをDRCコンフリクトフリーと呼び、使用する紛争鉱物がDRCコンフリクトフリーであることを保証することが企業に求められております。

当社のソルダーペーストや温度ヒューズには、スズを主成分とするはんだを使っているため、それらがDRCコンフリクトフリーであることを調査・確認することは、CSR調達を推進する上で、人権尊重、法令遵守の観点から重要であると考えております。

最終規則の発効を受けて2012年10月に調査要領を決定し、11月より取引先様へ実態調査を依頼しました。サプライチェーンを遡って製錬所を特定すること、そして、DRCコンフリクトフリーであることの調査になります。

当社では、指定した組成のはんだ地金を購入し、それを粉末化してソルダーペーストに加工しておりますので、はんだ地金の購入先およびそのサプライチェーンの皆様方にご協力いただきました。その結果、当社に納入いただいているはんだ地金中のスズは、DRCコンフリクトフリーであるとの報告をいただくとともに、可能性のある全ての製錬所を特定することができました。

温度ヒューズに使用するスズについては、現時点で一部、調査が未完了ですが、すでに回答いただいたものは、全てDRCコンフリクトフリーでした。

その他の材料についても取引先様および二次、三次の取引先様のご協力を得ながら紛争鉱物の使用実態の調査を進めております。

今後も、CSR調達を推進することにより、企業の社会的責任を果たしてまいります。

[ページトップへ戻る▲](#)

[このサイトについて プライバシーポリシー](#)

(C) TAMURA Corporation, All rights reserved.



タムラ製作所

検索

Powered by Accela BizSearch

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

製品情報

会社情報

投資家情報

リクルート情報

CSR活動

<b>CSR 活動</b>
トップメッセージ
経営理念
タムラグループの CSR
コーポレート・ガバナンス
コンプライアンス・危機管理
CSR取り組み 分野別報告
社会性報告
お客様との関わり
取引先の皆様との関わり
株主・投資家の皆様との関わり
従業員との関わり
社会貢献活動
環境報告
第三者意見
編集方針
Corporation Report
English
Chinese

## 株主・投資家の皆様との関わり

株主・投資家の皆様にタムラグループを正しく理解・信頼していただくため、各種法令・規則に沿って企業情報の適時かつ適切な開示に取り組んでいます。

### ■ 投資家向け決算説明会の実施

当社は3月期を本決算とし、四半期毎に決算発表を行っております。本決算発表(5月)と第2四半期決算発表(11月)の際には発表後数日以内にアナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催し、社長および経営幹部が決算概況や見込等の説明を行っています。そして、この決算説明会では、IR活動に関するアンケートを実施し、株主・投資家の皆様に向けた情報発信方法を改善するよう努めています。

### ■ ホームページの開設による情報開示

迅速かつ公平な情報を公開するため、投資家情報サイトを開設し、コミュニケーション促進に取り組んでいます。有価証券報告書、決算説明会の資料などは発表後遅滞なくホームページに掲載しています。そのほかにも株主・投資家の皆様向けの各種情報媒体として、決算短信(四半期ごと)や株主通信などを発行しています。  
IR情報は[こちら](#)をご覧ください。

[ページトップへ戻る▲](#)

このサイトについて [プライバシーポリシー](#)

(C) TAMURA Corporation, All rights reserved.



タムラ製作所

検索

Powered by Accella BizSearch

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

◆製品情報

◆会社情報

◆投資家情報

◆リクルート情報

◆CSR活動

<b>CSR 活動</b>
◆ トップメッセージ
◆ 経営理念
◆ タムラグループの CSR
◆ コーポレート・ガバナンス
◆ コンプライアンス・危機管理
◆ CSR取り組み分野別報告
◆ 社会性報告
◆ お客様との関わり
◆ 取引先の皆様との関わり
◆ 株主・投資家の皆様との関わり
◆ 従業員との関わり
◆ 社会貢献活動
◆ 環境報告
◆ 第三者意見
◆ 編集方針
◆ Corporation Report
◆ English
◆ Chinese

## 従業員との関わり

タムラグループミッションの実現に向け、従業員自身が成長し、より大きな力を十分に発揮することができるよう、人事制度の整備や人材育成を実施するとともに、ワークライフバランスを重視した様々な取り組みを行っています。

### 人権

#### ■ 人権の尊重・差別に関する方針

タムラグループでは、「タムラグループ行動規範」を制定し、事業活動と職務遂行の上での行動や判断の基準としています。その中の“基本的人権の尊重”の基本方針として、企業活動の中での国籍、人種、民族、性別、年齢、宗教、信条、社会的身分、疾病および心身の障害等に基づく差別を禁止しています。また、細則として、いかなる差別的言動、暴力行為、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント等の人権を無視する行為や、性的嫌がらせ・虐待、身体的懲罰、精神的・身体的強要、暴言による虐待などの過酷で非人道的な扱い等を禁止しています。

#### ■ 従業員についての考え方・方針

タムラグループは、従業員一人ひとりの「パートナーシップ」「革新する勇氣」「多彩な個性」、そして「人間的な成長」を大切にするとともに、公正な視点で従業員を評価し、努力によって成果をもたらす人を最も称賛します。また、従業員の健康と安全のため、快適で能率的な職場環境を整え、それぞれのライフスタイルの充実を支援していきます。

#### ■ 人事制度・人材育成

##### ◆ 職務グレード制

職務グレード制とは年齢、学歴、性別などにとらわれず、「具体的行動と成果」に基づき従業員のグレードを定めるものです。職務と報酬の透明性と納得性を高めることにより、チャレンジする風土醸成と、職場マネジメントの一層の活性化を図ります。

##### ◆ 公正・公平な評価制度

タムラグループは、努力によって成果をもたらす人を称賛します。評価制度は「育成」「配置」「処遇」という3つの重要な人事に深くかかわるため、人事制度においてはその中心に位置づけ、「行動特性評価」と「目標チャレンジ評価」に基づき、従業員の一人ひとりを公正な視点で評価しています。また、人事評価の公平性・透明性を担保するため、管理監督者層には評価者研修を義務づけています。

##### ◆ グローバル人材育成

会社組織の一層の活性化をグローバル視点で推進するため、従業員個々人の能力とスキルの強化策を実施しています。従業員一人ひとりのグローバル人材としての成長期待を明確化し、また既に海外ビジネスで経験を積んだ従業員の貴重なグローバルスキルや、海外現地採用従業員のスキルが会社の財産として公正に評価される仕組みを整えることにより、「全員が主役のグローバル企業」に向けた風土づくりを進めています。

2013年度はグローバル人材育成の一環として、若手従業員向けに、新入社員全員を対象とした海外研修(於中国)、および入社2年目から5年目までの従業員を対象としたグローバルマインドセット研修を実施しました。また、中国においては、海外現地採用従業員全員を対象に経営理念教育、並びに管理監督者を対象としたマネジメント研修を実施し、タムラグループ共通の階層別研修のグローバル展開を図りました。



若手従業員向け海外研修にて、現地従業員との交流



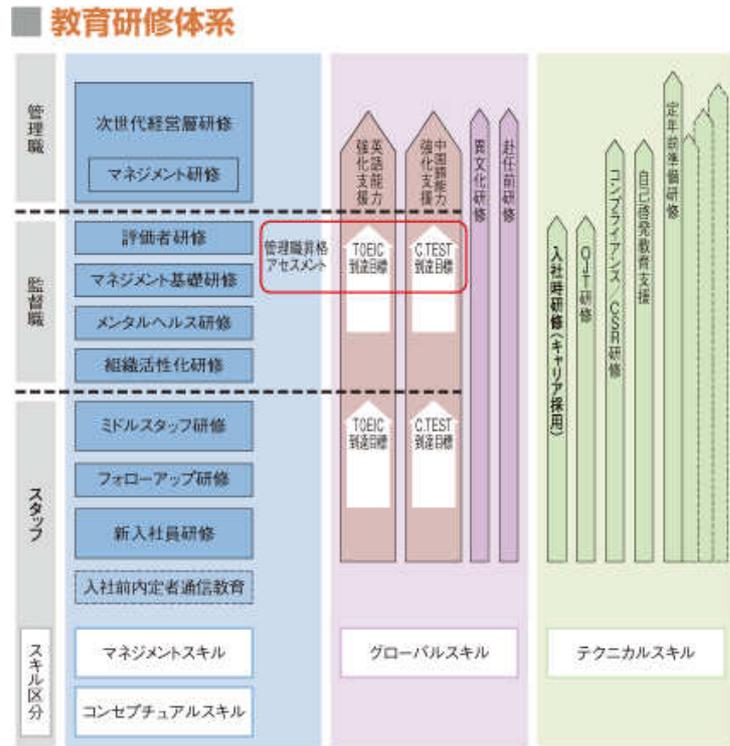
グローバルマインドセット研修



海外法人マネジメント研修(上海)

##### ◆ 教育研修体系

タムラ製作所では、それぞれの職務に必要な知識・技能の習得のため、また職場間コミュニケーションの場として、階層別スキル別の教育研修を実施しています。



・当該データはタムラ製作所

## 労働

### ■ 労働に関する基本方針

タムラグループでは、「タムラグループ行動規範」を制定し、事業活動と職務遂行の上での行動や判断の基準としています。その中の“基本的人権の尊重”の細則として以下の内容を規定しています。

- ・「結社の自由の尊重」として各国の法令に従った結社の自由と、労働組合への加入等の権利の尊重
- ・「不当労働の禁止」として強制労働、債務労働、奴隷労働、非自主的囚人労働、児童労働の禁止

### ■ 安全衛生

従業員の安全、健康を確保し、かつ適正な作業環境を形成・維持することは、企業が継続していくために最も重要なことです。そこで、労働安全衛生法に基づいて設置が義務付けられている事業所においては「安全衛生委員会」を設置して、労働災害の防止、交通事故の防止、公害の防止、火災防止に関する問題点を抽出し、対策を講じています。

また自然災害等を想定した各種訓練も実施しており、2013年度は各事業所での避難訓練及び安否確認訓練、海外子会社出向者を対象とした安否確認訓練を行いました。

### ◆ 交通安全の取り組み

2013年度は交通安全の取り組みに注力しました。各事業所の全社用車にドライブレコーダーを設置し、万が一の事故対応に備えるとともに、運転者の安全運転配慮意識の向上を企図しています。自転車通勤者の安全配慮を目的とした自転車管理細則も整備しました。また、外部講師を招き、自動車利用者、自転車利用者を対象とした交通安全教室を各事業所で実施するなど、交通事故防止の啓発に努めています。今後も交通事故の減少に寄与すべく、このような取り組みを続けてまいります。

#### 自転車安全利用モデル企業に指定

タムラ製作所は2013年9月27日、警視庁より「自転車安全利用モデル企業」に指定されました。

「自転車安全利用モデル企業」とは、警視庁が、自転車の安全利用に積極的に取り組む企業を模範企業として指定し、従業員の交通安全意識の高揚と自転車の安全管理に努める企業の拡大を図ることを目的とした制度です。自転車交通事故ゼロを目指した当社の取り組みが評価され、東京都内では31番目、本社のある石神井警察署管内では第1号の指定企業(埼玉県内事業所を含む)となりました。



#### ■ メンタルヘルス対応強化

職場でのメンタルヘルスケアに関する基本知識の習得及び「心の不調者」の発生予防と早期発見のきっかけをつかむため、管理監督者を対象にメンタルヘルス研修を行っています。

また、健康管理の観点、および適切な初動対応のために、産業医による面談と、専門カウンセラーによるストレスカウンセリングの場をそれぞれ月一回設け、従業員やその上司を対象としたサポート体制を整えています。

#### ■ 育児休業

1994年より社員育児休業規程の整備を順次進め、制度利用を積極的に推進しております。育児休業取得者は、2013年度は2010年度比で220%、2012年度比で114%と性別を問わず増加傾向にあります。また、育児休業を終えた後に短時間勤務をしながら活躍する従業員も、2013年度は2010年度比で350%、2012年度比でも100%と、高い水準を維持しております。

仕事と育児を両立しやすい環境整備の取り組みが評価され、次世代育成支援対策推進法に基づく「子育てサポート企業」(くるみんマーク取得企業)として、厚生労働大臣の認定を受けております。

#### ■ 労務管理の徹底

従業員の適正な作業環境を維持するために、全管理職対象に労務管理に関するEラーニング(「労働時間・安全衛生の管理」「セクハラ・パワハラ防止」等)を実施しました。

### コンプライアンス

#### ■ 腐敗の防止

タムラグループでは、「タムラグループ行動規範」を制定し、事業活動と職務遂行上の行動や判断の基準としています。その中で以下の内容を禁止しています。

- ・「自由な競争及び公正な取引」として各国、地域において適用される自由な競争、公正な取引に関する法令に違反すること
- ・「インサイダー取引の禁止」として証券市場の健全性・公正性を阻害すること
- ・「不適切な接待及び贈答の禁止」として接待、贈答の授受に関して、一般的社会通念を逸脱した行為をすること
- ・「公的機関との不適切な取引及び不適切な政治献金の禁止」として公的機関との取引及び政治献金に関する関連法令に違反すること

#### ■ コンプライアンス教育の充実

コンプライアンス経営の重要性が増していますが、その実現には経営者だけでなく、従業員一人ひとりの意識と感度を高めることが不可欠であり、その重要な手段としてコンプライアンス教育を位置づけています。

2013年度には、先に導入した映像教材等を利用したユニット内での個別教育を継続したほか、当社グループのコンプライアンス体制強化の具体的手段と位置付けている二つの通報制度(アラムエスカレーションWeb報告システム及び社内通報制度)への理解を深めるための講習会を引き続き実施し、国内事業拠点についてはグループ会社も含め全て完了いたしました。

#### ■ コンプライアンス意識調査の実施

2013年度において、国内のタムラグループ全従業員(約1,400名)に対しコンプライアンス意識調査を実施いたしました。調査方法はインターネットを利用したアンケート方式とし、ほぼ100%に近い回答率を得ました。結果は全て外部委託会社のサーバー上で集計され、専門家による分析レポートを入手しております。これにより当社グループのコンプライアンス意識の見える化が図れ、部門ごとの弱み・強みなどの課題も明確になりました。

今後はこの調査結果を、当社グループのコンプライアンス活動及び教育等がより有効なものとなるよう活用してまいります。

[ページトップへ戻る▲](#)



タムラ製作所

検索

Powered by  
Accela  
BizSearch

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

- 製品情報
- 会社情報
- 投資家情報
- リクルート情報
- CSR活動

CSR 活動
トップメッセージ
経営理念
タムラグループの CSR
コーポレート・ガバナンス
コンプライアンス・危機管理
CSR取り組み分野別報告
社会性報告
お客様との関わり
取引先の皆様との関わり
株主・投資家の皆様との関わり
従業員との関わり
社会貢献活動
環境報告
第三者意見
編集方針
Corporation Report
English
Chinese

## 社会貢献活動

社会との調和および共存を図るために、国や地域社会との相互理解を深め、信頼関係を築くとともに、地域に貢献する事業経営を積極的に行います。

### 社会貢献活動費

タムラグループの2013年度の社会貢献活動費総額は、約2,200万円でした。経常利益に対し0.8%に相当します。なお、2012年度の総額は約2,700万円でした。

### 寄附

タムラグループでは、以下のような寄附活動(金銭、物資の両方)を行っています。

- ・ 赤十字社の活動資金
- ・ 赤十字社、経団連(1%クラブ)、その他の団体を通じた被災地支援
- ・ 工場立地地域の加盟各種団体への活動会費
- ・ 地域祭礼への寄附
- ・ 大学、公的機関への研究支援(自社の製品・技術開発を目的としたものは除く)

### ものづくり教室開催

2008年より毎年、事業所所在地周辺の小学生を対象に、ものづくり教室を開催しています。

2013年度も、「ものづくり教室～自分だけのラジオ作りに挑戦～」と題して、当社の創業にゆかりのある、ラジオの製作に挑戦しました。

### ◆ 会津タムラ製作所

2014年1月31日、会津タムラ製作所では初めての取り組みとなる、ものづくり教室を開催しました。同社は電源機器や放送機器などを生産する工場で、熟練のはんだ付技術を有する従業員6名が福島県会津美里町の小学6年生54名に、授業の一環としてラジオ製作を指導しました。はんだ付は初めての経験という児童たちばかりでしたが、完成したラジオから音が聴こえた瞬間には喜びや満足げな表情がみられました。学校にも父兄にも大変好評で、地域の企業として事業を知ってもらうきっかけにもなりました。今後は定期的な取り組みとして継続していく予定です。



### ◆ タムラ製作所・光波

6度目となるものづくり教室を、2013年11月30日、東京都練馬区の小学校にて開催しました。練馬区内の小学生13名が参加し、同区内に事業所のある光波の従業員が中心となり、はんだ付をメインとするラジオ製作を指導しました。年に1回で、事業所周辺地域での持ち回りでの開催ではありますが、未来を担うエンジニアの誕生につながることを確信して、今後とも取り組みを継続してまいります。



### ■ 女子サッカーリーグ ASエルフェン埼玉への協賛

タムラ製作所は、2006年よりトップパートナーとして日本女子サッカーリーグ・なでしこリーグ所属で埼玉県狭山市を中心に活動している「ASエルフェン埼玉」を応援しています。同クラブは2013年、日本女子サッカーリーグのチャレンジリーグで2位となり、2014年には、なでしこリーグに再昇格。またチーム名称をASエルフェン狭山FCからASエ

ルフェン埼玉に変更し、活動の場を広げています。当社は同クラブの本拠地である埼玉県狭山市の事業所内に有しているスポーツセンターを地域に開放しておりますが、同クラブへの練習場としても提供しています。また、クラブを運営するNPO法人の行うサッカー教室を中心とした、健康増進・スポーツ振興などを目的とする総合型地域スポーツクラブの活動を支援しております。今後もスポーツ活動支援を通じた地域への社会貢献活動の充実を図っていきます。



ASエルフェン埼玉



オフィシャルサイトはこちら

### ■ インターンシップ・職場体験学習

タムラグループでは、未来を担う次の世代に「ものづくり」の素晴らしさを伝えることは「企業の社会的責任」(CSR)であるとの考えに基づき、「ものづくり」の現場を体験し「働くこと」を実感してもらい活動を推進しています。海外関係会社を含め、中・高・大学生や留学生などを対象としたインターンシップや職場体験学習を受け入れています。また、企業における「人材育成」や「顧客サービスの仕組み」を学び、今後の学校運営や授業改善に活かしていただく機会として、学校の先生方を対象とした職場体験学習も受け入れています。



タムラ電子(マレーシア)



タムラ製作所

### ■ グリーンカーテンの設置

無理せず実施できる社会貢献・環境への配慮について常々考えています。2013年はゴーヤと朝顔のグリーンカーテンを本社各一箇所を実施しました。事業所内の従業員と相談しながら、種から発芽させ、手作りプランターの設置、ネット張り、一日2回の水やり等の協力得て、目にも鮮やかなグリーンカーテンができあがりました。日なたが40℃の時でもカーテンの内側は34℃の日がありました。ゴーヤは、総務の提案により社員食堂でゴーヤチャムプルーとして提供されたり、希望する従業員へも配付できるほど収穫できました。これを発端として、各事業所に広まっていくことを期待しています。



本社総務G 小口やよい  
(2012年eco検定取得)



### ■ フィリピン台風被災者への義援金

2013年11月、フィリピン共和国中部を直撃した台風30号により、現地では甚大な被害が生じました。被災された方々への義援金として、タムラ製作所から50万円を、またグループ社員有志による募金約10万円を、日本赤十字社を通して寄附いたしました。

### ■ ユニセフ外国コイン募金

タムラグループは2013年、日本ユニセフ協会の「ユニセフ外国コイン募金」に参加いたしました。グループ従業員から外国コインを集め、ユニセフの活動資金として世界の子供たちのために役立てています。これまでの従業員一部有志での活動を2013年よりグループ全体としての取り組みに拡大、当社グループの活動初年度となる2013年度は、約11.5kg(金額換算で約81,000円相当)のコインと紙幣を寄附いたしました。今後とも継続して活動に取り組んでまいります。



■ エコキャップ活動の推進

日本国内のタムラグループでは、ペットボトルのキャップを集め、キャップ回収団体を通してリサイクルメーカに売却し、その代金でワクチンを購入し、途上国の子供たちに届ける活動である「エコキャップ活動」を2009年12月より実施しております。キャップ約4,300個分(約10kg)が、ポリオワクチンで約5人分になります。また、廃棄処分をしていたキャップをリサイクルすることで、キャップ約4,300個分(約10kg)でCO<sub>2</sub>を約31.5kg削減することもでき、環境面でも貢献することができます。2013年度はグループ合計で約252kg(2010年度は約278kg、2011年度は約300kg、2012年度は約309kg)のキャップを収集しました。ポリオワクチン126本、CO<sub>2</sub>削減794kgに相当します。



キャップ収集箱

■ 使用済み切手収集活動の推進

日本国内のタムラグループでは、使用済み切手を収集、コレクターに販売することにより換金し、地域ボランティア活動や海外医療協力団体等に寄附する「使用済み切手収集活動」を2010年3月より実施しております。使用済み切手の換金率は、約1,000～1,200円/kgです。2013年度はグループ合計で約5.7kg(開始初年度の2010年度は約15.3kg、2011年度は約4.8kg、2012年度は約9.8kg)の使用済み切手を収集しました。切手の貼られた郵便物は減少していますが、継続して取り組みます。

[ページトップへ戻る▲](#)

[このサイトについて プライバシーポリシー](#)

(C) TAMURA Corporation, All rights reserved.



タムラ製作所

検索

Powered by Accela BizSearch

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

- ◆製品情報
- ◆会社情報
- ◆投資家情報
- ◆リクルート情報
- ◆CSR活動

CSR 活動
◆ トップメッセージ
◆ 経営理念
◆ タムラグループの CSR
◆ コーポレート・ガバナンス
◆ コンプライアンス・危機管理
◆ CSR取り組み分野別報告
◆ 社会性報告
◆ 環境報告
◆ 環境経営
◆ 環境目標および実績と評価
◆ 環境保全への取り組み
◆ 第三者意見
◆ 編集方針
◆ Corporation Report
◆ English
◆ Chinese

## 環境経営

タムラグループでは、継続的な改善により、環境負荷の低減に取り組むことで、社会的責任を果たすとともに、持続可能な社会づくりに貢献します。

### タムラグループ環境方針

#### 環境理念

タムラグループミッションである「私たちは、タムラグループの成長を支えるすべての人々の幸せを育むため、世界のエレクトロニクス市場に高く評価される独自の製品・サービスをスピーディに提供していきます」にもとづき、地球環境・生物多様性の保全を推進し、全ての企業活動において環境との調和を図ります。

#### 重点施策

タムラグループの事業である電子部品、電子化学材料、はんだ付装置、情報機器関連の設計・開発・製造・サービス活動において、環境マネジメントシステムを運用し、資源の有効活用、汚染の予防及び法規制等を順守すると共に、その継続的な改善を図り、次に示す環境保全活動を重点的に実施します。

1. 環境貢献製品を提供します。
2. 環境負荷物質を抑制し、削減します。
3. 省エネルギー、省資源を推進します。

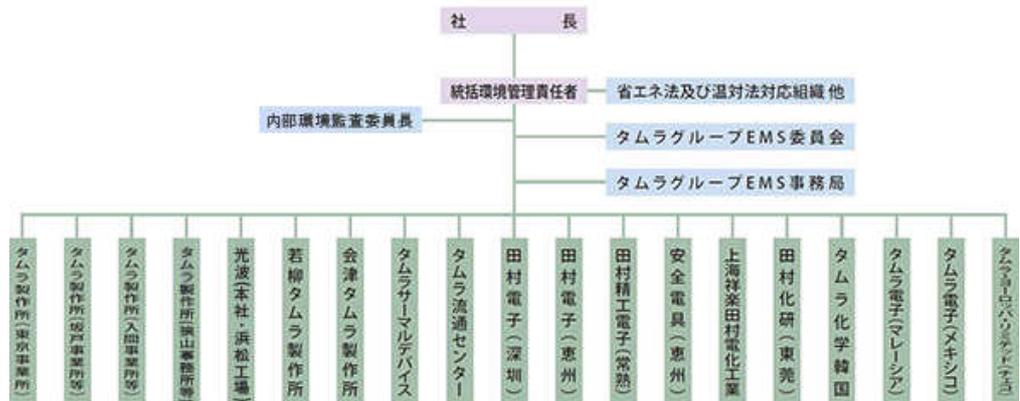
#### ■ 環境マネジメントシステムの統合

タムラグループは、2006年度より、グローバルに統一した環境マネジメントシステムを構築し、2013年度までに16社25サイトを統合し、タムラグループ全体の環境パフォーマンスの向上、環境ガバナンスの強化に取り組んでいます。

#### ■ 推進体制

タムラグループは、社長をトップとし、環境マネジメントシステムを管理するため、統括環境管理責任者を設置し、各サイトの事業部門の責任者を委員とした「タムラグループEMS委員会」を組織しています。タムラグループEMS委員会は、システムの運用に関わるコミュニケーションの向上や水平展開、グループ全体の環境パフォーマンスの改善を推進しています。

#### ■ 推進体制図(2014年4月1日時点)



#### ■ タムラグループISO14001認証証明書

タムラグループISO認証証明書は[こちら](#)をご覧ください。

[ページトップへ戻る▲](#)

[このサイトについて](#) [プライバシーポリシー](#)

(C) TAMURA Corporation, All rights reserved.



タムラ製作所

検索

Powered by Accela BizSearch

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

- ◆製品情報
- ◆会社情報
- ◆投資家情報
- ◆リクルート情報
- ◆CSR活動

CSR 活動
◆ トップメッセージ
◆ 経営理念
◆ タムラグループの CSR
◆ コーポレート・ガバナンス
◆ コンプライアンス・危機管理
◆ CSR取り組み分野別報告
◆ 社会性報告
環境報告
◆ 環境経営
◆ 環境目標および実績と評価
◆ 環境保全への取り組み
◆ 第三者意見
◆ 編集方針
◆ Corporation Report
◆ English
◆ Chinese

## 環境目標および実績と評価

タムラグループでは3つの共通目標、「環境貢献製品売上比率の拡大」「環境負荷物質の削減」「電気使用量の削減」を掲げ、環境保全活動に取り組んでいます。

### ■ タムラグループ目標および実績と評価

タムラグループは環境方針で重点施策に掲げた3項目を「環境貢献製品の売上比率の拡大」「環境負荷物質の削減」「電気使用量の削減」の3つの共通目標として環境保全活動に取り組んでいます。2013年度は、3項目ともに目標を達成することができました。

#### 2013年度 タムラグループ目標と実績

	環境目的	2013年度目標	2013年度実績	2014年度目標
I	環境貢献製品の売上比率の拡大	環境貢献製品の売上比率 プレミアム環境貢献製品:15% (一般環境貢献製品:49%)	15% (58%)	プレミアム環境貢献製品の 売上比率17%
II	環境負荷物質の削減	化管法 <sup>※</sup> 対象化学物質 2005年度比原単位60%削減	64%削減	化管法 <sup>※</sup> 対象化学物質 2005年度比原単位64%削減
III	電気使用量の削減 (CO <sub>2</sub> 排出量の削減)	電気使用量 2005年度比3%削減	4%削減	電気使用量 2005年度比5%削減

※化管法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

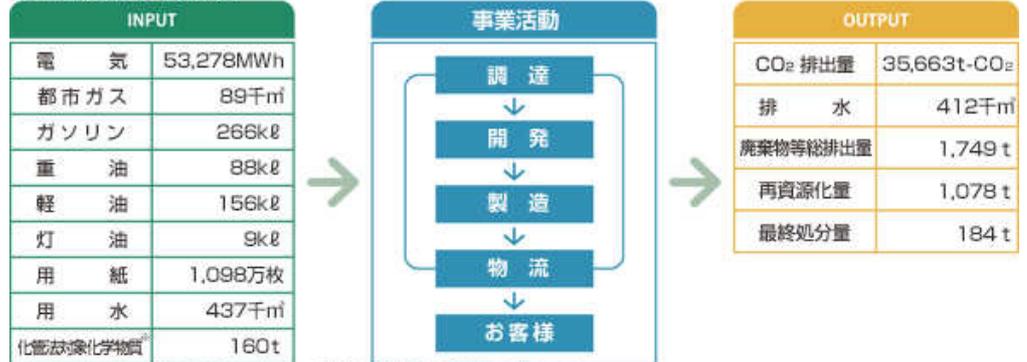
### ■ 温室効果ガスの長期削減目標

低炭素社会の実現に向けてタムラグループでは、2013年度からCO<sub>2</sub>排出係数の変動を考慮して電気使用量を指標とし、2020年度において、2005年度比15%削減を新たな目標に掲げ、推進しています。

### ■ タムラグループ環境負荷の概況

タムラグループは、事業活動における環境負荷を定量的に把握し、プレミアム環境貢献製品の開発をはじめ、生産性の向上や物流の効率化など、事業活動のあらゆる場面で、環境負荷の低減に取り組んでいます。

#### 2013年度 環境負荷の概況



※海外工場も同一基準で管理しており、本数値は海外分を合算した数値です。

#### 環境負荷の経年変化

	INPUT		
	2011年度	2012年度	2013年度
電気	50,101MWh	51,789MWh	53,278MWh
都市ガス	40千m <sup>3</sup>	58千m <sup>3</sup>	89千m <sup>3</sup>
ガソリン	218kℓ	226kℓ	266kℓ
重油	125kℓ	84kℓ	88kℓ
軽油	192kℓ	146kℓ	156kℓ
灯油	4kℓ	0.2kℓ	9kℓ
用紙	1,016万枚	1,073万枚	1,098万枚
用水	444千m <sup>3</sup>	441千m <sup>3</sup>	437千m <sup>3</sup>
化管法対象化学物質	186t	152t	160t
集計対象サイト	23サイト	25サイト	25サイト

	OUTPUT		
	2011年度	2012年度	2013年度
CO <sub>2</sub> 排出量	33,892t-CO <sub>2</sub>	34,664t-CO <sub>2</sub>	35,663t-CO <sub>2</sub>
排水	422千m <sup>3</sup>	411千m <sup>3</sup>	412千m <sup>3</sup>
廃棄物等総排出量	1,622t	1,718t	1,749 t
再資源化量	1,225t	994t	1,078 t
最終処分量	210 t	232t	184 t
集計対象サイト	23サイト	25サイト	25サイト

[ページトップへ戻る▲](#)

[このサイトについて](#) [プライバシーポリシー](#)

(C) TAMURA Corporation, All rights reserved.



タムラ製作所

検索

Powered by Accela BizSearch

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

◆製品情報 ◆会社情報 ◆投資家情報 ◆リクルート情報 ◆CSR活動

CSR 活動	
◆ トップメッセージ	
◆ 経営理念	
◆ タムラグループの CSR	
◆ コーポレート・ガバナンス	
◆ コンプライアンス・危機管理	
◆ CSR取り組み分野別報告	
◆ 社会性報告	
◆ 環境報告	
◆ 環境経営	
◆ 環境目標および実績と評価	
◆ 環境保全への取り組み	
◆ 第三者意見	
◆ 編集方針	
◆ Corporation Report	
◆ English	
◆ Chinese	

## 環境保全への取り組み

### ■ 事業活動

タムラグループでは、事業活動を通じて地球温暖化を防止すべく、CO<sub>2</sub>排出量の削減および省エネルギー活動を推進しています。  
また、環境負荷物質を削減し、環境影響の最小化に取り組んでいます。

### ◆ 電気使用量の削減(CO<sub>2</sub>排出量の削減)

2013年度からはCO<sub>2</sub>排出量の削減目標は、CO<sub>2</sub>排出量の約95%を占める電気使用量に着目し、目標設定を行い、取り組みを推進しました。

2013年度は、工場レイアウトの見直し、LED照明、省エネ型エアコン、変電設備の更新、生産性の向上による残業時間の削減等に取り組む、電気使用量を2005年度比3%削減の目標に対し、4%削減し、目標を達成しました。

### ■ 電気使用量

電気使用量(千kWh)



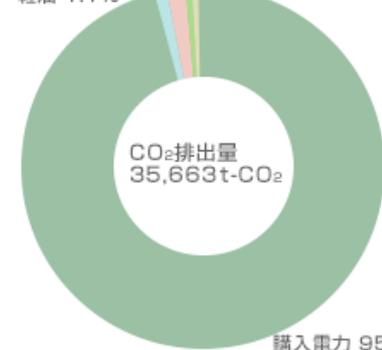
### ■ CO<sub>2</sub>排出量削減実績

CO<sub>2</sub>排出量(t-CO<sub>2</sub>)



### ■ CO<sub>2</sub>排出量内訳

重油 0.7%  
ガソリン 1.7%  
軽油 1.1%  
都市ガス 0.5%



※使用した排出係数について

電力のCO<sub>2</sub>排出係数:

国内「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」参照  
海外「International Energy Agency Data Services 2005の数値」参照

電力以外のCO<sub>2</sub>排出係数:

国内外共通「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」参照



インバーターコンプレッサ  
[若柳タムラ製作所]

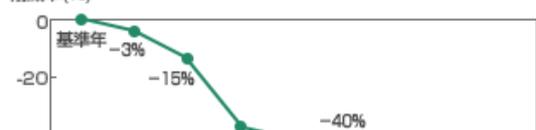
### ◆ 環境負荷物質の削減

2013年度は、売上金額原単位を指標とし、2005年度比60%削減を目標に環境負荷物質の削減に取り組みました。

化学物質管理の徹底、代替物質への変更、作業改善等を実施し、2005年度比で64%削減、目

### ■ 環境負荷物質

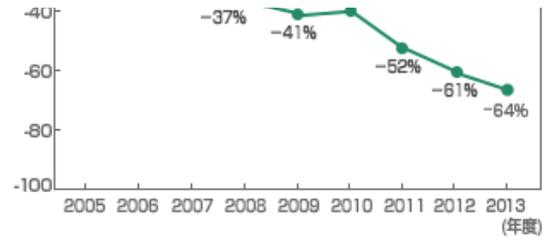
削減率(%)



標を達成しました。



排ガス処理装置[若柳タムラ製作所]



■ 製品

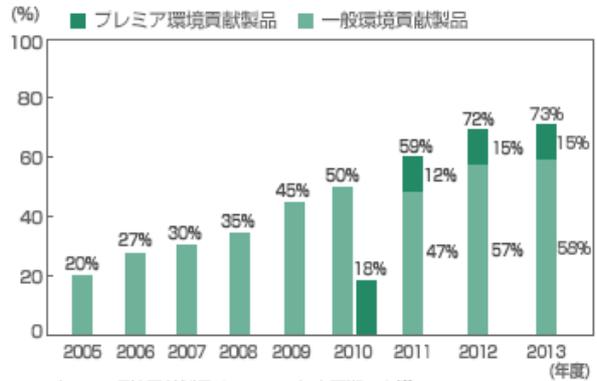
タムラグループでは、製品のライフサイクルを見据え、環境影響の最小限化に取り組むとともに、プレミア環境貢献製品の開発・提供を通じて地球環境への貢献を目指します。

◆ プレミア環境貢献製品売上比率の拡大

タムラグループは、従来から環境負荷低減に貢献する製品を「環境貢献製品」(当社独自基準で評価)としておりましたが、階層構造製品環境アセスメントを導入して、環境貢献製品の中でも特に優れたものを「プレミア環境貢献製品」に認定することとし、2010年10月から適用を開始しております。  
 プレミア環境貢献製品の詳細はこちらをご覧ください。

2013年度は、プレミア環境貢献製品の売上比率15%を目標に売上拡大に取り組みました。  
 その結果、2013年度のプレミア環境貢献製品の売上比率は15%となり、目標を達成しました。  
 さらなる開発・提供を通じて環境負荷の低減に貢献していきます。

■ 環境貢献製品売上比率



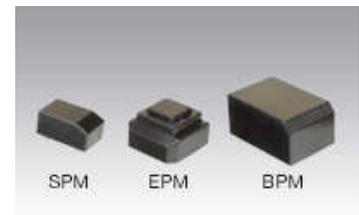
※プレミア環境貢献製品は、2010年度下期から導入したため、2010年度実績は下期を示す。

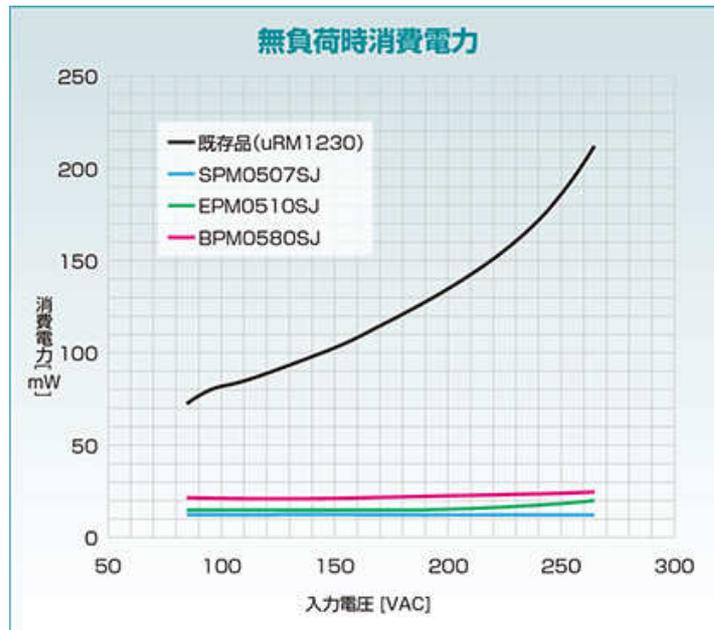
■ プレミア環境貢献製品の紹介

タムラグループでは、開発・設計段階で製品環境アセスメントを実施し、環境影響の最小限化に取り組むとともに、プレミア環境貢献製品の開発・提供を通じて地球環境への貢献を目指しています。

◆ 電源モジュール(SPM、EPM、BPMシリーズ)

省エネルギー化の法律規制強化が、世界的に進んでいます。また、エコ特性を付加価値とする電気製品も拡大しており、電源の省エネルギー化要求は高まる一方です。  
 高効率電源モジュール(SPM、EPM、BPMシリーズ)は、無負荷時の消費電力特性と、軽負荷時(製品の待機状態)の効率特性を、大幅に向上させたモジュールです。お客様の「業界最高水準の省エネルギー製品を、短期間で開発したい」という要求に対応し、使用電力量の削減と開発工数の削減に貢献します。





◆フレキシブル基板用ソルダーレジスト PAF-300シリーズ

近年、スマートフォンやタブレットPCに代表される、携帯機器には薄型化、軽量化、高機能化の要求があり、プリント配線板にも薄型化、軽量化、高密度実装対応が要求されています。そのような電子機器には、益々フレキシブルプリント配線板(FPC)が使用されています。PAF-300シリーズはFPC用ソルダーレジストとして必要な折り曲げ性等の機能だけではなく、デザイン性を求めるお客様の声に応え、「機能性・安全性とともに退色しない色彩の美しさ」を併せ持った「ハロゲンフリーで難燃性を有し柔軟性に優れた多色対応可能なソルダーレジスト」です。

- 【特徴】 ● 環境対応: ハロゲンフリー ● 安全性対応: 難燃性(UL対応)  
 ● デザイン性対応: 多色対応 ● 機能性対応: 折り曲げ性・低弾性低反発・低反り性



◆植物育成用光源 DC12V/5.8W

植物育成で使用される蛍光ランプの代替および省エネ化を目的とし開発しました。実績としてはバナシめじの育成に使用され、一般の蛍光ランプと同等以上の発育環境にあるとのご評価を頂いております。長さは40W蛍光ランプと同等、寿命は50,000時間と従来の蛍光ランプの約5倍です。また、パイプにポリカーボネートを使用することで蛍光ランプのように割れる心配もなく安心してご使用頂けます。汚れた場合は防水構造なので水洗いが可能でお手入れも簡単です。





※Ta=20℃ 全光束初期値70%時

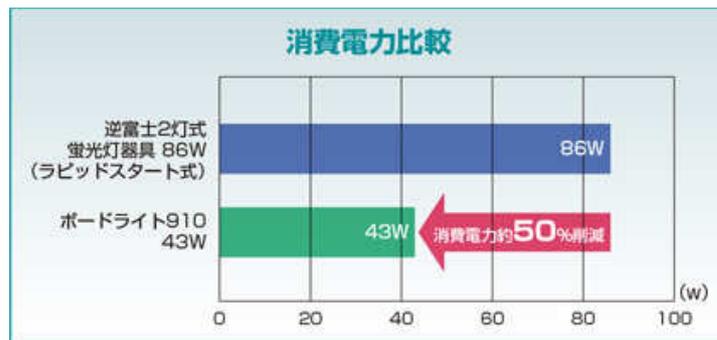
◆ 天井材型LED照明 ボードライトシリーズ

薄い、軽い、簡単施工の次世代型LED照明です。天井ボードを貼るような感覚で短時間で施工ができるため、オフィスや店舗のレイアウト変更にも柔軟に対応できます。

従来のラピッドスタート式蛍光灯2灯式器具と比べ約50%の節電効果があり、CO<sub>2</sub>や使用電力量の削減に貢献します。



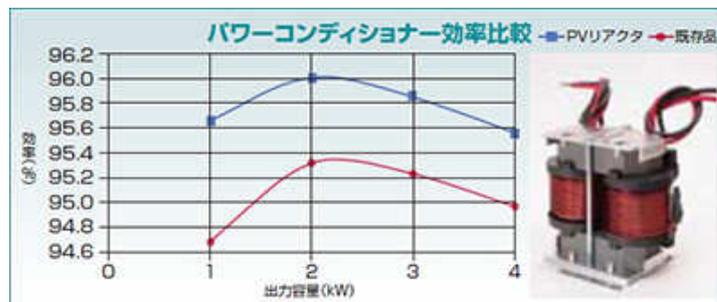
ボードライト910



※蛍光灯は灯具形式やランプにより、若干の消費電力差が生じます。

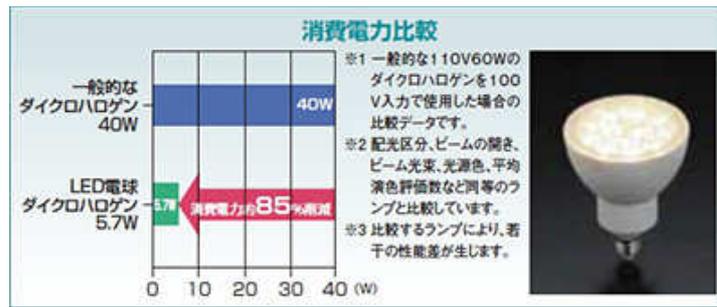
◆ 太陽光発電向け高性能PVリアクタ

太陽光発電を行う際の電力変換装置(パワーコンディショナー)には、その電力変換効率をたとえ僅かでも向上させるための最新技術が盛り込まれています。その電力変換装置に搭載されるリアクタをPVリアクタとして標準化されたトータル108種のバリエーションにてカタログ化しました。その特徴は、1)異素材コアを組み合わせたHybrid技術、2)スパイクノイズを最小限に抑え、変換装置のEMC対策に貢献するSpike-Blocker技術、3)2つのMPPTを1台のリアクタで機能させるCB-Reactor技術があり、装置のセット効率向上に貢献しています。このPVリアクタはタムラが自信を持ってお届けする世界標準リアクタです。



◆ LED電球 ダイクロハロゲンタイプ 5.7W(LDR6L-M-E11/D)

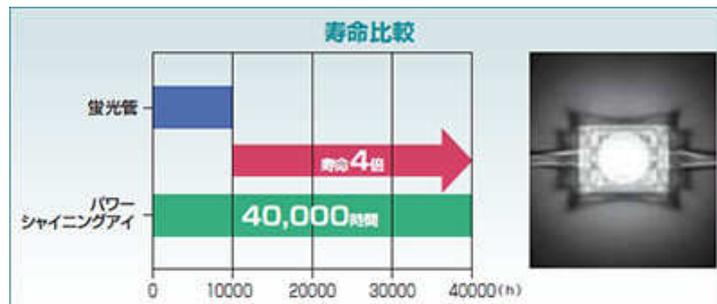
飲食店舗、アパレル店舗などの省エネをお手伝いすべく開発しました。従来のダイクロハロゲンランプと同等の大きさで業界最高クラスの明るさを実現しました。工事不要で手軽に置き換えられるだけでなく、一般的な40Wのダイクロハロゲンランプに比べて消費電力は5.7W、約85%の節電効果があり、CO<sub>2</sub>削減、使用電力量の削減に貢献します。



◆ **パワーシャイニングアイ (FA0039FD31)**

直下型のバックライト光源モジュールのパワーシャイニングアイは、内照式看板および各種間接照明光源として開発しました。これまでの蛍光灯方式の光源に比べ、小型・薄型化を実現したうえに、均一な面発光も可能になったため、さまざまな用途に対応できるようになりました。

一般的な内照式看板で使用する場合の消費電力は、従来の蛍光管と比べ約65%の節電を実現。また、40,000時間の長寿命によりメンテナンスコストの削減も好評いただいております。



■ **リスク管理**

環境法規制の順守を徹底するとともに、事故および緊急事態を想定した教育や訓練を行うことで、事故の未然防止とリスクの最小化に取り組んでいます。

◆ **製品含有化学物質管理**

タムラグループでは「タムラグループ製品含有化学物質管理ガイドライン」を2009年11月に制定し、製品含有化学物質管理をシステムチェックを行うこととしました。その後、2010年4月に国内の子会社を統合したために、タムラグループ全体を適用事業所とする管理体制への見直しを行いました。2011年11月に「製品含有化学物質管理組織図」を、また、2012年2月に「同管理細則」を制定し、新たな管理体制のもとで、推進を開始しました。

これに基づき、製品含有化学物質に関する法規制等の情報に基づくグリーン調達基準の見直し、グリーン調達の推進、製品含有化学物質に関する情報やデータのお客様への提供という一連の業務を迅速かつ正確に進めております。

◆ **環境法規制順守状況**

環境方針に従い、環境法規制等を順守することは、事業活動の基本と認識します。2013年度は、環境に重大な影響を与える事故及び緊急事態はありませんでした。

◆ **環境教育**

環境負荷を継続的に改善するためには、従業員一人ひとりが理解を深め、自覚を持って業務を行うことが重要と考え、さまざまな環境教育を実施し、正しい理解と実践に取り組んでいます。

◆ **緊急事態対応訓練**

海外を含めた各サイトでは、環境に影響を与える様々な緊急事態及び事故を想定し、日常点検及び設備のメンテナンスによる予防対策と、事故発生時の緊急対策の2つのリスク管理体制を構築しています。また、緊急事態及び事故を想定した基本的かつ具体的な初動手順を定め、毎年、訓練を実施するとともに、手順の有効性の確認、見直しに取り組んでいます。



化学物質漏洩対応訓練  
[狭山事業所]



化学物質漏洩対応訓練  
[狭山事業所]



化学物質漏洩対応訓練  
[児玉工場]



消防訓練  
[光波(本社)]



消防訓練  
[若柳タムラ製作所]



化学物質漏洩対応訓練  
[会津タムラ製作所]



トラック燃料漏れ対応訓練  
[タムラ流通センター]



消防訓練  
[田村電子(恵州)]



消防訓練  
[上海祥楽田村電化工業]



消防訓練  
[田村化研(東莞)]



化学物質漏洩対応訓練  
[田村精工電子(常熟)]



化学物質漏洩対応訓練  
[タムラ電子(マレーシア)]

[ページトップへ戻る▲](#)

[このサイトについて プライバシーポリシー](#)

(C) TAMURA Corporation, All rights reserved.



タムラ製作所

検索

Powered by Accella BizSearch

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

◆製品情報 ◆会社情報 ◆投資家情報 ◆リクルート情報 ◆CSR活動

CSR 活動	
◆	トップメッセージ
◆	経営理念
◆	タムラグループのCSR
◆	コーポレート・ガバナンス
◆	コンプライアンス・危機管理
◆	CSR取り組み分野別報告
◆	社会性報告
◆	環境報告
◆	第三者意見
◆	編集方針
◆	Corporation Report
◆	English
◆	Chinese

## 第三者意見

千葉大学大学院  
人文社会科学部研究科教授  
倉阪 秀史 氏

1964年、三重県伊賀市生まれ。1987東京大学経済学部卒業。同年、環境庁入庁。地球温暖化対策、リサイクル、企業の環境対策、環境基本法、環境影響評価法の制定等の施策に携わる。メリーランド大学客員研究員等を経て、現職。著書に、『環境を守るほど経済は発展する』（朝日選書、2001年）、『環境政策論』（信山社、2004年）、『地域主導のエネルギー革命』（編著：本の泉社、2012年）、『政策・合意形成入門』（勁草書房、2012年）。



タムラグループのCSRWeb報告書に対して第三者意見を述べさせていただきます。

タムラグループは、創業90年を迎える歴史のある企業ですが、グローバルに展開する企業として、国際標準に適合した最先端のCSRマネジメントシステムが運用されています。国連のグローバル・コンパクトを支持するとともに、2014年3月にはISO26000の「社会的責任に関する手引」に整合するよう「タムラグループ行動規範」が改訂されています。国際的な規範に適合した取組が進められているため、タムラグループの社会性報告においては、社会貢献活動のみならず、CSR/グリーン調達、人権、労働、コンプライアンスといった幅広い社会性報告の各項目について、具体的な取り組みが報告されています。

また、国際的に展開する企業として、グループ全体のマネジメント水準を一定以上に保つためのさまざまな工夫が行われている点も評価されるべきです。たとえば、今年度は、海外関係会社への出向者や今後出向が予定されている人、また、技術系の業務で海外拠点に出張する機会が多い人たちを主な対象者とした品質研修を行ったことが報告されています。また、入社2年目から5年目までの従業員を対象としたグローバルマインドセット研修を実施したことも新しい取組として報告されています。さらに、国内のタムラグループ全従業員（約1,400名）に対しコンプライアンス意識調査を実施しています。常に、新しい工夫が行われています。

環境報告の分野においては、電気使用量、売上高原単位での環境負荷物質量、プレミアム環境貢献製品の売上比率という三つの指標を用いて目標を設定し、その実現に取り組んでいます。タムラグループは、2014年3月からはじまった環境省のFun to Shareキャンペーンにもいち早く参加され、電気使用量を2020年度に2005年度比で15%削減するという宣言を行っています。また、環境貢献製品の売上比率という本業に直結する目標を設定していることは、取組の継続性を確保する鍵となる事項です。これらの点は、他の企業にも見習っていただきたい点です。

タムラグループでは、2013年度は3つの環境指標の全てで目標が達成されました。ただし、2012年度と2013年度の数値を比較すると、電気使用量、化石燃料消費量などの多くの環境指標が総量ベースで増加しています。2014年度目標が達成できるよう、さらなる省エネ・省資源の取組を進める必要があります。

また、CSR取組分野別の報告の項目において、昨年に比較して達成率80%未満という自己評価が減少していますが、この自己評価の根拠がもう少し説明されればもっとわかりやすくなると感じました。

国内のさまざまな企業がCSR報告書を公表する中で、タムラグループのCSR報告書は、社会性報告の報告項目の範囲や具体的な取組内容の点で、他の企業の模範となるものです。今後ともこの取り組みを継続していただければ幸いです。

### ■第三者意見を受けて

2013年度のタムラグループのCSR活動報告に対して、本年も引き続き千葉大学大学院の倉阪秀史教授に第三者意見をお願いしました。

タムラグループのCSR活動に対し、「国際標準に適合した最先端のCSRマネジメントシステムが運用されている」と評価していただいたことははじめ、社会性報告においては、幅広い分野において「具体的な取り組みが報告されている」など、良い評価を頂戴しました。

一方で、環境報告の分野において電気使用量、化石燃料使用量などの多くの環境指標が総量ベースで増加していることに対し、さらなる省エネ・省資源の取り組みを進めて2014年度目標を達成できるようにとのご指導をいただきました。また、CSR取り組み分野別報告の達成率について、自己評価の根拠が判り難いのご指摘もいただきました。前者については、生産量の増減の影響を最小にし、かつ、総量を削減するような生産体制への移行を進めるようにということであると考えます。一時期にまとめて対応するのは困難ですが、設備更新の機会に、あるいは、更新時期の見直しも行いつつ、意識して進めて参る所存です。後者の自己評価の根拠につきましては、判りやすくするために工夫をして次回報告書作成に臨みたいと思います。

CSR推進本部  
佐藤信義

[ページトップへ戻る▲](#)

[このサイトについて プライバシーポリシー](#)

(C) TAMURA Corporation, All rights reserved.



タムラ製作所

検索

Powered by Accela BizSearch

[サイトマップ] [お問い合わせ] [English] [Chinese] [HOME]

◆製品情報 ◆会社情報 ◆投資家情報 ◆リクルート情報 ◆CSR活動

CSR 活動	
◆	トップメッセージ
◆	経営理念
◆	タムラグループのCSR
◆	コーポレート・ガバナンス
◆	コンプライアンス・危機管理
◆	CSR取り組み 分野別報告
◆	社会性報告
◆	環境報告
◆	第三者意見
◆	編集方針
◆	Corporation Report
◆	English
◆	Chinese

## 編集方針

「CSR活動」サイトは、タムラグループのCSRの取り組みについて、ステークホルダーの皆様にご理解いただくためのサイトです。CSR活動はタムラグループの企業活動そのものであるという考え方から、当社が事業活動を通じてCSRを実践している姿をわかりやすく伝えるように心がけました。  
当サイトの編集にあたっては、『GRI サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン3.1』、環境省『環境報告ガイドライン(2012年版)』、ISOガイダンス規格『ISO26000』を参照しました。

また、『TAMURA CORPORATION REPORT 2014』は、グループ概要や事業を紹介した[CORPORATE PROFILE]と、CSR活動をダイジェストで紹介した[CSR REPORT DIGEST]を1冊にまとめて、タムラグループをご紹介する冊子として発行するものです。

### ■ 報告対象期間

2013年4月1日～2014年3月31日(一部、2014年4月以降の活動も含まれます)

### ■ 報告対象範囲

株式会社タムラ製作所及びグループ会社です。  
ただし、環境報告については、各種データ、及び活動報告とも、当サイト環境経営ページの推進体制図に掲載されている事業所及び関係会社を対象範囲としております。

### ■ 発行

2014年7月(前回:2013年7月 次回:2015年7月)  
ただし、最新の活動情報については、「CSR活動」サイトに随時追加掲載し、新着情報でお知らせいたします。

### ■ 国連グローバル・コンパクトへの報告

「CSR活動サイト」及び「TAMURA CORPORATION REPORT」を国連グローバル・コンパクト署名企業の年次活動報告書「Communication on Progress」として提出しています。



### ■ お問い合わせ先

CSR推進本部 CSR・環境・品質推進室  
TEL:03-3978-5293 FAX:03-3978-2760  
メールフォーム <http://www.tamura-ss.co.jp/inquiry/index.html>

[ページトップへ戻る▲](#)